

最終年度に入った3カ年中期経営計画の達成に全力を尽くし、変化の激しい時代の潮流を柔軟に乗り切る経営基盤の確立を目指す。実現に向け課題に挙げるのは魅力ある職場環境の実現と人材育成の強化。経営トップとして、デジタル技術も積極的に取り入れこれまで以上に「働きがい」や「誇り」が得られる職場づくりに心血を注ぐ。

— 就任の抱負を。

「前松井隆幸社長が就任した6年前と比べ売上高や社員数に大きな変動はないが、利益面は向上し会社の實力は着実に上がっている。ただ重点施策に掲げる4週8休など職場環境づくりは道半ばの状況だ。DX（デジタルトランスフォーメーション）の取り組みを加速し、働き方改革や生産性向上につなげる。SDGs（持続可能な開発目標）の達成など、社会的課題にも柔軟な発想でスピード感を持って対応する。変革に挑戦し企

## 三井住建道路

はすい はじめ  
**蓮井 肇氏**

# 変革に挑戦 企業価値向上へ

業価値の向上を目指していく。職員も失敗を恐れずチャレンジしてほしい」

— 注力する分野は。

「官庁土木は国土交通省や高速道路会社の修繕・更新工事など一定の投資が見込める。積算力や提案力を高め受

注確保につなげる。ICT入し、また技術系社員を中心（情報通信技術）の活用工事や週休2日制の適用工事にも積極的挑戦する。民間工事ではアスファルトプラント設置エリアを中心に大型舗装工事の受注拡大を狙う。関東圏が中心だった中小規模の宅地造成工事は全国展開を視野に活動範囲を拡大していく。製品部門では計画的な設備更新で工場機能を高め、地域シェアの拡大を目指す。環境事業は土壌汚染対策を強化する」

— 働き方改革と生産性向上が求められている。

「4週8休の完全実施を目指す。特殊な工事もあり目標達成は容易ではないが、制度や意識改革で労働時間を減らし、確実に休日を取得できる環境を整備する。ICTなども積極的に取り入れる。管理面では電子決裁システムを導入

「技術者不足に対応するため、引き続き採用活動は積極的に。同時にDXの推進などで省力化や省人化を加速させる。デジタル化など新たな時代への対応を含めた人材育成も重要だ。人は会社の発展を支える最も大切な財産といえる。将来を担う優秀な人材を計画的かつ着実に育てていく」。

## ■新社長



1989年北海学園大学工学部土木工学科卒、三井道路（現三井住建道路）入社。2018年執行役員中部支店長、20年取締役兼常務執行役員工事本部長、安全統括、安全環境部担当。北海道出身、54歳。信条は「何事も楽しく前向きに」。趣味はバードウォッチング。「鳥を話題に一日中語り合える仲間に出会いたい」。

（4月1日就任）

三井住建道路の社長に1日付で蓮井肇氏が就任した。プロパー出身のトップは松井隆幸前社長に続いて2人目となる。2022年3月期は現中期経営計画の最終年度であることから、「まずは中計の仕上げにしっかりと取り組み、『どのような環境でも柔軟かつ機動的に対応できる持続的で安定的な経営基盤の確立』を目指す」と強調する。現状の課題や取り組みを聞いた。



## 蓮井 肇氏

### 三井住建道路

——就任の抱負は  
「当社は、松井前社長が就任した2015年と比べて、売上高や社員数はほぼそのままながら経常利益は確実に増加し、社員の処遇についても改善が進み会社の実力が確実に向上したと感じている。そこからさらに企業価値を上げるために、DX（デジタルトランスフォーメーション）やサステナビリティを意識した経営に取り組みたい」

## 新 社 長 Interview

# 持続的な経営基盤確立

——中期経営計画の進捗は  
「利益の確保などの数値目標に対しては、計画以上に順調な進捗となっている。ただ、重点施策で第1に掲げている『魅力ある職場環境の実現と

め、当社としてもDXを進めていく必要があると考える。電子決裁や現場でのタブレット端末の導入などの取り組みをさらに進め、ICT工事も積極的に参加することで生産性向上に努めたい」  
「受注環境については、官庁工事では一定規模の発注が維持される一方で、民間工事はコロナの影響で設備投資を手控える企業も出てきて競争が激化していくことが予想さ

全実施による休日の確保や長時間労働の削減などに取り組みむとともに、デジタル技術の活用で工事の省人化・高速化・高精度化を進めて職員の負担を軽減しなければならぬ。加えて、CSR（企業の社会的責任）活動やSDGs（持続可能な開発目標）への取り組みを通じてイメージアップを図り、担い手確保につなげたい」  
——グループ連携につい

人材の育成・強化』についてはまだ6、7割程度。及第点ではあるがまだまだ取り組むべき課題は多いといった印象だ」

「製品部門に関しては、計画的な設備更新を実施し、地域のシェアの確保に向けた営業展開を進めていく」  
——人材不足の解消には  
「道路建設業のイメージ改善が不可欠だ。4週8休の完

「道路建設業界は大きな変革期を迎えている。三井住友建設グループの一員として、親会社と連携を取りながらさまざまな変革に対応していきたい。また、三井グループ・住友グループという大きなネットワークでは多種多様な業種が存在している中で、どこでシナジー効果を得ることができ

「新型コロナウイルス感染症の流行によって、社会のデジタル化が急速に進んだ。この流れが止まることはない

「現在の経営環境と課題について」

「グループ連携について」

### 記者の目

本社勤務は昨年4月の工事本部長就任時が初。組織の重要性やトップの責任を再認識したと振り返る。「何事も楽しみ、前向きに取り組む」ことを信条としており、社長就任についても「得がたいチャンスと捉えて引き受けた。社員の先頭に立って会社を盛り上げていきたい」と話す。趣味のバードウォッチングは15年来的趣味で、「話し出すと止まらなくなる」ほど。休日にはカメラを携え公園などに出かけたり、社内のフォトコンテストのプライベートルームで入賞したことも。

かしっかりと模索しながら、厳しい社会環境の中でも勝ち残るためにウイン・ウインの関係構築していく」

\* \* \*

（はずい・はじめ）1989年3月北海学園大工学部土木工学科卒業、同年4月三井道路（現三井住建道路）入社。関東支店副支店長、執行役員中部支店長、取締役常務執行役員工事本部長、安全統括、安全環境担当などを経て、2021年4月から現職。北海道出身。66年12月17日生まれ、54歳。

